

(令和6) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(東 和) 学童保育所

	活動の基本目標（指針）	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	安全・衛生の確保	・マスクの着用 ・手洗いの励行 ・室内外の安全管理と見守り ・室内の換気 ・子どもの健康管理把握 ・欠席者の確認 ・児童の体調の確認	・感染症予防の観点から、登所時・おやつ前の手洗いの指導を徹底した。 ・感染症予防の観点から、室内の換気を徹底した。 ・連絡なしの欠席児童のご家庭に関しては、安心・安全面を何度も伝えることで連絡の大切さを伝え、確認が取れた。 ・児童が自らQRコードで入退室を打刻するよう、指導を徹底した。
	健康の管理・情緒の安定		・居残りや指導等で登所が遅れる場合は、学校から連絡をしてもらうよう改善を行った。出欠の確認がスムーズになった。 ・体調のすぐれない児童にはマスクの着用を促し、検温や応急処置を行う体制を徹底できた。
	基本的生活習慣の確立	・持ち物の整理・整頓・片付け ・おもちゃの片づけ ・学習の習慣づけ	・ロッカーの整理をする様に声を掛け、整理整頓につながった。 ・自分で使ったおもちゃは自分で片づけることが定着した。（色を分けてシールを貼り、児童が片付けやすい環境に改善した。） ・登所後はまず宿題をする事が定着してきた。時間を区切って静かに宿題ができる環境を作ることが出来てきた。
	社会生活技術の獲得	・自立へ向けての仲間作り	・班活動を取り入れ、おやつの片づけを当番制にした。片づけは班で責任をもって行うという意識が定着した。 ・高学年に関しては、宿題・遊びおやつの時間を自ら考え工夫して取り組んでいた。
子ども育成機能	生活体験の拡大	・入所式 ・スペシャルおやつ ・和菓子の日（抹茶と和菓子を食べる。） ・本のアンケート ・マジックショー	・感染予防症の観点から、在籍児童の見送りと写真撮影に留めた。 ・毎月の楽しみとして、実施することができた。 ・スペシャルおやつに児童からのリクエストを取り入れ、内容をより児童主体のものにする事ができた。 ・児童に学童で購入する本のアンケートを取り、積極的に読書を行う習慣へとつなげることができた。 ・外部の方に依頼し、充実した内容で活動を行うことができた。今年は事前に座席を決め、2グループに分けて2回行った。
	社会性の養成	・クリスマス会・ビンゴ大会	・活動では4年生以上が司会や進行を行い、リーダーとして1～3年生を見守る姿が見られた。 ・今後は、班活動の取り組みにも力を入れていきたい。
	自立の促進と自主性の尊重	・初詣 ・マンカラ大会 ・将棋大会 ・けん玉検定	・季節の行事に沿って活動することで、国に根付いている文化に触れることができた。 ・行事の内容によっては子ども主体のものが増え、子どもが積極的に進めていくことができた。 ・長期休暇に大会を開催することで、異学年の交流やクラスとしてのまとまりを作ることができた。 ・『検定』を設けることで、子どもの自己肯定感や自信につながり、一生懸命何かに取り組む事の大切さを感じる子どもが増えた。 ・令和7年度もあそびの充実・準備・環境整備・児童が主体的に取り組むことのできる行事に力をいれていきたい。
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供と交換	・さくらdaysの活用 ・くるみだより・発行・配布	・さくらdaysを活用することによって、保護者からの連絡を円滑に行うことができた。 ・今年は行事も増やすことができ、学童の生活を保護者の方に伝えられる内容も、取り入れられた。 ・もう少し「学童での子どもの様子（写真付きで）」や「どんな遊びが流行っているか」などの内容も来年度取り入れたい。
	子育ての仲間づくり	・個人面談	・児童の学童や家庭での様子を共有することができた。児童の意識も変わった。 ・今回は普段の生活が気になる児童を中心に、希望者のみで行ったが順番に全員と面談ができるよう実施していきたい。
	子育てを支えるネットワーク形成	・学校との連携 ・修了式	・学校の担任との情報交換を行い、共有しあった。（昨年度から年度末に担任との面談も実施している。今後も続けたい。） ・学校から登所時間の変更などの連絡がくることが定着した。より連携しあえるようになった。 ・修了式では、児童全員に記念品を贈った。児童一人一人が成長している意識を持つ事が出来た。来年以降もこの形で行いたい。